



<<高本小展示>> イディッシュ語とその世界

あなたはイディッシュ語を知っていますか？

イディッシュ語はアシュケナジム（中東欧のユダヤ人）が用いるドイツ語によく似た言葉です。英語やヘブライ語、ロシア語などへの使用言語の切り替え、そしてホロコーストにより、その話者数は激減しました。しかし、この言葉を通じた活動はいまだなお活発であり、イディッシュ語の文学作品を原作とする『屋根の上のヴァイオリン弾き』のようにユダヤ人のほとんどいない日本において親しまれているものさえあります。

不思議な活力にあふれるイディッシュ語の世界へ飛び出してみませんか？

展示資料は借りることができます（ただし、辞典類は借りられません）。
資料の一覧は、Web本棚サービス“ブックログ”にてご覧いただけます。

附属図書館本館1階読書スペース Yomocca 2022年1月5日～3月31日（予定）展示



背景画像：ブカレストの国立ユダヤ劇場

出典：https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/1/1c/Teatrul_Evreiesc_de_Stat.jpg

一橋大学附属図書館ブックトーク2021開催報告

12月1日（水）附属図書館ブックトーク2021「都市をつかいこなす-小さな場所から始まる社会の可能性を考える-」をオンラインにて開催しました。ブックトークは本学名誉教授・社会学研究科特任教授の町村敬志先生。ライブ配信による講演とチャットを利用した質疑応答に、学内外から約50人が参加しました。

紹介された図書は『都市に聴け-アーバン・スタディーズから読み解く東京』（2020）。変貌する都市・東京を多方面から考察し、執筆時すでに上陸していた新型コロナウイルスの都市社会への影響にも触れている先進的な書です。



町村先生「今日はこの本の別の側面を紹介します」

講演では、パンデミック下の行動制限や物理的な老朽化、現実迫るネット空間など課題を抱えつつ、多様な人々の新しい挑戦を受け入れ、居場所となる都市の可能性が、ポジティブに解明されました。

参加者からは「コロナ禍が10年後の日本の都市と人々のコミュニティに与える影響は？」「様々な人が生きていく『隙間』を確保するためにできることは？」など質問が相次ぎ、アンケートでも「研究を身近に感じた」「オンラインが新鮮」など多くの感想が寄せられました。

『都市に聴け』
電子ブックは
こちらです→



都市をつかいこなす
小さな場所から始まる
社会の可能性を考える

電子リソース新規導入のお知らせ

本年より新しく導入した電子リソースをご紹介します。

【キャンパス外アクセス可】

Taylor & Francis Online Journal Archive

Taylor & Francis社が提供する創刊号から1996年号までの電子ジャーナルバックファイル。

Anthropology Archaeology Heritage

人類学・考古学分野、33タイトルにアクセスすることができます。

Psychology

心理学分野、66タイトルにアクセスすることができます。

Taylor & Francis eBooks Archive Collection

Taylor & Francis の大学・学術機関向けeBook プラットフォームにて提供中の1294年から1980年までに出版され電子化されている約6,000タイトルにアクセスすることができます。Routledgeの人文社会科学系タイトルを中心に、Psychology Press・CRC Press等の全てのレーベルが含まれます。

Oxford University Press Very Short Introductions

難解なテーマを分かりやすく解説するオックスフォードの入門書シリーズ(Very Short Introductions)のオンライン版。

「Social Science」「Law」の2分野が利用できます。

※2021年刊行分を追加購入しました。

Nikkei Asiaが無料購読できます

先着200名

現在、本学で契約しているNikkei Asiaの電子版を期間限定で無料で購読できるプログラムを提供しています。

今回、日本経済新聞社提供のグローバル教育支援プログラムの一環として実現しました。



申込方法等は図書館ウェブサイトのお知らせをご確認ください。

<https://www.lib.hit-u.ac.jp/20211129/27541/>

先着200名ですので、定員に達した時点で申込を締め切ります。

↑ 詳細はこちら 無料購読期間：申込日～2022年5月31日